明日を拓く 直方鉄工青年会

瑞雲

ずいうん

第85号 平成19年7月27日

瑞雲：めでたいしるしの雲の意

直方鉄工青年会
第43代会長 石松慶裕

平成19年度スローガン

一所懸命

直方鉄工青年会第43代会長を勤めさせていただきます、(株)直方歯車製作所　石松慶裕と申します。

今年年男の36歳です。若輩者ですが～一所懸命～頑張ります。皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、掲げておりますスローガン～一所懸命～についてお話させていただきます。～一所懸命～は長い平安時代の天皇・貴族政治から、武士が政治権力を奪取した、即ち源氏による鎌倉幕府設立当時に生まれたといわれています。幕府から所領を預かった地方の豪族たちが「その一所領に命を懸ける」という決意の言葉として使われたのが始まりだそうです。この瞬間が、日本の歴史上大きな転換期だったことは疑う余地もありません。なにしろ、その後、武士による封建制度は江戸幕府が終わり、明治時代が始まるまで700年も続くのですから。この瞬間のような「劇的な」変化は、長い歴史の中でもそう何度も起こるものではないのです。～一所懸命～は、この瞬間の武士たちの高揚した気分や雰囲気を見事に、また鮮明に現代の我々に伝えて余りある言葉です。

このとき生まれた封建制度とは、御恩と奉公と呼ばれる主従関係システムです。御恩は幕府が御家人にもたらす利益のことで、奉公は御家人が幕府にもたらす利益のことです。時代が流れ、民主主義政治となった今でも、会社のシステムはこれとさほどかわりはありません。上場した株式会社の場合、株主による民主主義的な株主総会が開かれていますが、それは株式会社の総数から考えると、非常に稀なケースです。大部分の株式会社は同族会社であり、株主イコール経営者、つまり我々の会社のようなものなのです。世襲で株式と会社がそのまま受け継がれ、同族が企業を支配する形態は、封建時代のそれと似通っています。御恩と奉公の関係は、給与と労働力という形に代わりましたが、その本質はまったくといっていいほど同じものです。そう考えると、この直方鉄工青年会の会員は、みな自分の所領を持っている御家人のようなものです。「一所」が会社に代わっただけといえます。我々はみな～一所懸命～に頑張っているのです。

また、「一所」をひとつの土地と考えるならば、我々は同じ直鞍地区に会社を構えています。「直方」の縁で結びついているのが我々直方鉄工青年会です。

直方という町が良いか悪いかではなく、ほとんどの会員企業が「直方にあるから」今も存在しています。創業時にはここを選んだ理由があったのでしょう。それは石炭が栄えたエネルギー革命が起こる以前の話です。その理由を今は亡き創業者に聞くことはできませんので、想像の範囲を出ません。それでも創業者は鎌倉武士のようにこの場所に懸けたのでしょう。時代が流れて、これからは土地を選ぶ時代が来るのではないでしょうか。もちろん、今でも他所がよければ他所に行くことができます。会社は地面に生えているものではないからです。事実、ある大企業は創業の地を捨て、合理化のために工場を一箇所に集中しました。理由はグローバル化する競争に勝ち残るためです。

そうは言っても、我々が先述の大企業のように思い切った決断を迫られてもなかなか簡単にはいかないでしょう。コストや人材など相当なリスクが予想されます。それならば、この「直方」が我々の望む町になれば良いのです。もしくは、我々のような産業が望む町に。そうなれば、企業が減るどころか、更に増えていくでしょう。嬉しいことに、自動車産業の好調を背景として、この傾向は実現に向かっているように感じます。

企業が増えれば税収も増える。町も潤う。御恩と奉公の関係で考えれば、奉公が税金です。さて、御恩は？我々の望む町とは？これから先は政治の話であり、私の論ずる範囲ではありません。ただ、今後は行政サービスを考えた町づくりが重要になってくるでしょうし、市民であり企業経営者である我々からも行政に対して積極的に働きかけていくことが重要ではないでしょうか。

最後の「一所」は、青年会です。「直方」と「鉄工」と「青年会」この３つを組み合わせたのがこの会です。しかし青年会では御恩と奉公の関係は非常に曖昧です。私は、青年会のために会員ができること、青年会から会員が学べること、この両者がイコールであり、プライスレスなものだと思っています。何もしなければ、何も得られない。まあ、これは私見であり、会員それぞれが違っても構わないのです。ただ、ここから「何か」を見出すことができれば。会員の皆さんが与えてくれた「会長」という機会がその「何か」を見出す大きなチャンスだと思っています。

今年度はこれまで先輩たちが培ってくれた「ものづくり」を核に活動していきます。ものづくりや各事業活動、委員会活動を通して会員の皆さんとともに「何か」を見出せれば、と思っています。とにかく、青年の会らしく、若い力と感性で鎌倉武士のように、～一所懸命～頑張っていこうと思っています。また、会員減少を食止めること、これも今年の大きな課題となっています。会の活性化は何より、会員であると私は考えます。現会員がより頑張ることは当然のこととして、やはり新人会員を切望しております。少しでもこの直方鉄工青年会に興味をお持ちの方がいらっしゃれば、ご紹介下さい。厚かましいお願いとは存じますが、お願い申し上げます。

拙文にお付き合い頂き、ありがとうございました。

（直方鉄工青年会 5月懇親会）

ごあいさつ

総務委員会担当副会長　**桑　原　英　年**

今年度、石松会長の命により総務委員会担当の副会長を務めることになりました。総務委員会は年2回の通常総会と毎月の例会のほか、会員の親睦を主においた事業も行ってまいります。例年では事業内容の自由度が少ない委員会ですが、その中でも創意工夫によってより良い結果を出せることと思っています。そのためにも、高倉委員長のもと、委員が団結し活動出来る様、また石松会長の補佐役として一年間活動してまいりますので、今後とも皆様の温かいご支援、並びにご指導ご鞭撻の程よろしくお願いします。

最後になりましたが、統一地方選挙により、例年四月に開催しておりました通常総会懇親会が五月開催に変更させていただきましたが、皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。ご多忙中にも、多数の方にご出席頂き、誠に有難う御座いました。

経営・厚生委員会担当副会長　**石　橋　和　彦**

この度、経営・厚生委員会担当副会長に就任いたしました石橋和彦と申します。いつの間にか高い席に納まっている自分に気付き、戸惑うばかりの日々ではございますが、石松会長のもと、一年間それこそ一所懸命に職務をこなしてまいる所存です。

今年度の委員会としましては、花田委員長ならびに浅田副委員長とともに、昨年来より盛り上がってきているゴルフ熱を引き続き持続させることを柱に据えつつ、委員会事業運営してまいります。ゴルフそのものについては関しては委員長・副委員長に結果的にはお任せ状態になるかとも思われますが、その分身軽な立場で微力ながら石松会長の想いが少しでもよりよく実現できるよう、努力してまいる所存です。

青年会における経験もまだまだ短く、至らないところも多々あるとは存じますが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げ、ご挨拶に代えさせて頂きます。

広報・ものづくり委員会担当副会長　**黒　岩　義　泰**

今年度、広報・ものづくり委員会担当の副会長を務めさせて頂くことになりました、黒岩です。昨年度の副会長として青年会活動をしてきたその経験と今日の時代の流れを感じながら石松会長をサポートしていき、二人の副会長と共に、青年会活動を円滑に運営出来る様に精一杯頑張っていきます。

さて数年事業である、ものづくり事業は、これまでにクリーンエナジーカーと鉄男の部屋を製作してきましたが、その中のクリーンエナジーカーを、今年度はボディ製作とソーラーパネルを装備し改良する予定です。改良し完成させることも大切ですが、完成するまで試行錯誤し会員が一丸となって造り上げる事が大切だと思います。そのような過程が会員同士が親睦を深めていき、魅力ある会になっていくと私は考えています。また青年会の中だけではなく社会的に確立した会として今後運営していく事が会員減少の歯止めなると思っております。

新体制の下、魅了ある会・楽しい会・元気ある会になるように、委員会メンバーが一丸となって精一杯、事業に取り組んでいきたいと思いますので、皆様方の暖かいご指導ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

ごあいさつ

総務委員会　委員長　**高　倉　章　史**

この度、総務委員会委員長を務めさせて頂くことになりました高倉章史です。初めに委員長として任命して頂きました事を有難く御礼申し上げたいと思います。本年度で入会6年目、総務委員会は初めての経験ですが、経験豊富な副会長、頼りになる同級生の副委員長と委員メンバーと共に一年間頑張っていこうと思っております。

さて、我々総務委員会は、4月通常総会に始まり、5月懇親会、9月スポーツ事業、2月通常総会の4つの事業と毎月の例会を担当致します。その中でも最大のイベントであります懇親会を5月に控えております。第43代石松会長の船出に多くの来賓の方々を御迎えし、盛大な懇親会にすべく委員会一致団結して今年度スローガン「一所懸命」の如く一生懸命努力しております。他の事業につきましても活発に委員会を開催しまして、充実した事業内容にしたいと思っています。

最後になりましたが、何分経験が浅いため、色々と皆様に迷惑をかけるかと思いますが、何卒ご協力とご指導ご鞭撻賜りますようお願いし、ご挨拶に代えさせて頂きます。

経営・厚生委員会　委員長　**花　田　勇　平**

本年度、経営・厚生委員長を務めさせていただきます、花田です。

昨年は、ものづくり担当委員長を拝命しましたが、クリーンエナジーカーの製作に着手出来ず当初の目標には到達出来ませんでした。結果論ですが、当初の計画に甘さがあったと反省ばかりです。その経験を踏まえ今年度は悔いを残さないように事業に取り組む決意です。かつて諸先輩方が築いてこられた鉄工青年会の歴史の中には、厳しい規律や、筋の通った独特の雰囲気があったと聞きます。我々の世代も、馴れ合いの集団ではなく、常に緊張感を持ち、一致団結し、これからの鉄工青年会の歴史を作って参ります。私個人も、1年間振り返った時に、胸を張って報告出来るような委員会活動をしていくつもりですので、どうかご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

広報・ものづくり委員会　委員長　**田　渕　元　悟**

この度、平成19年度広報・ものづくり委員長を務めさせて頂くことになりました田渕元悟と申します。私が鉄工青年会に入会して5年目になります。昨年度は浅田会長の下で事務局長として務めさせて頂き、本年度は第43代石松会長より御指名頂き、委員長という大役を初めて務めます。委員長として石松会長を支え、気持ちを引き締め、責任の重さを感じ、会全体のムードを高めていきたいと思います。

さて我々担当事業としましては、瑞雲発行に始まり11月産業まつり・3月卒業生を送る夕べ・年間事業ものづくりとなっております。特にものづくりに関しては平成17年度よりクリーンエナジーカー製作が始まり現在に至っております。少しずつではありますが成果を出していかなければならないと思っております。

会の活動を仕事に置き換え考えてみると、予算・組織・計画・役員会・委員会・その他非常に学ぶ所が多く今後に活かせれる場所と思っております。今日まで諸先輩方が築き上げた歴史ある直方鉄工青年会の一員として恥ずかしくない様、又何分経験が浅いため皆様にはご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、第43代石松会長のスローガン「一所懸命」を目標に持ち頑張って参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

最後になりましたが、瑞雲第85号製作にご協力下さいました皆様方に心よりお礼申し上げます。

4月 総会

5月 懇親会

鉄男の部屋

平成18年度 9月例会・事業にて完成

平成19年度 卒業生の思い出

卒業に際して

貫　里　英　樹（第41代会長）

青年会にお世話になって、10年間「やっと！」と言うか「もう！」と言うか、卒業となりました。入会以来、他の会員からすると比較的短い期間でしたので、駆け足で色々な役をさせてもらいました。

自分の活動を振り返ってみて、一番印象に残る出来事といえば、41代会長をさせてもらったことでしょう。そのとき組織を動かす難しさ、面白さ、支えてくれた人達への感謝の気持ち等、トップに立つ時の心構えを経験させてもらった事は、今後の自分にとって非常に大きな糧となる事でしょう。

入会当初は、「青年会入会のメリットはあるのだろうか？」と青年会に対して後ろ向きな考えが大きかった自分が次第に変わっていったのは、何と言っても自分を支えてくれた年上、年下に拘らず仲間という存在でした。

そしてまた、青年会を通じて沢山の人と、知りあえた事や、自分を覚えてもらった事、楽しい遊び？を沢山教えて貰った事が、一番の「青年会入会のメリット」だと思います。

でも本当の意味での青年会に在籍させてもらったメリットは、卒業後に、人との係わり合いを通して色々解ってくると思います。

今後、自分がどういった方向に進むのか、どんな活動、遊び？をしていくのか、時間をかけて、楽しみながら、でも「break through」の精神を忘れずに、進んで行こうと思っています。

先輩方々からも、後輩達からも色んな事を教えてもらった、感謝！感謝！の10年でした。
有難うございました。これからもよろしくお願い致します。

吉　川　祐　二

私が、この会に在籍して16年の月日が経ち、長い期間ではありましたが、振り返って見ると青年会活動にも余り参加できずにおりました。

力に成れずに卒業を迎えるのは、心苦しくもあり最後の１年と成りましたが、会の活性化に貢献し様と積極的に参加しおります。その中で、ひとつ感じたことが、もっと早くにこの気持ちがあれば、今の自分に無い何かを掴めたかもと後悔しており今となっては時間が足りない様な気がします。

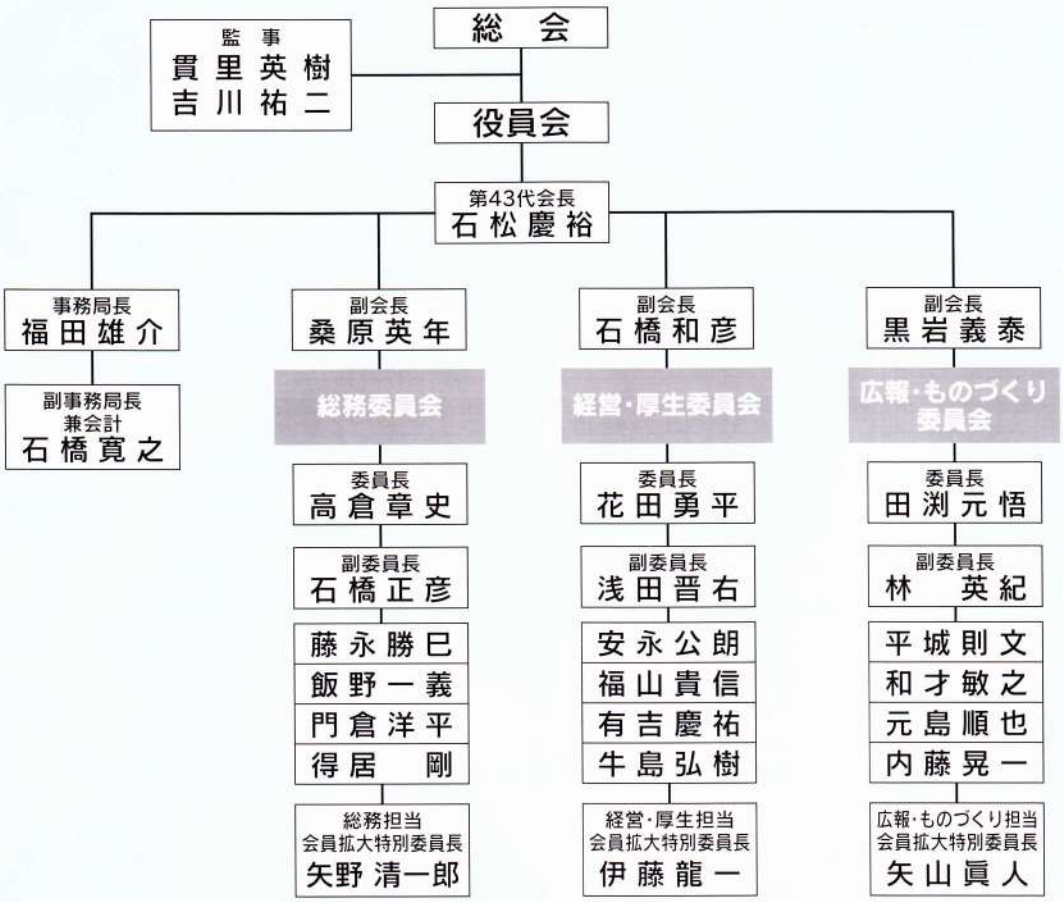
しかし、16年と言う月日のなか色々な思い出やエピソードもありました。

そのひとつに、私が、広報委員会の副委員長として活動した年の事です。「卒業生を送る夕べ」の事業を受け持った時のこと、アトラクションで歌って、踊る事になりふだん人前に立つことが、苦手な私がその役を受け当日になり会社を早退し、一人でカラオケＢＯＸに向かい練習したことがありました。その時の自分を振り返ると「必死なって練習をしていたなあ」と思い出し、あれだけ必死になったのは、始めてかもしれない？と今では楽しい思い出です。

また、自分が入会した当時は、会員が50人近くも在籍しておりましたが現在は減少傾向になりつつありますが今後は会員を増し、今よりもっと楽しい会になればと思います。

長い間お世話になり、ありがとうございました。

直方鉄工青年会　平成19年度組織図



平成19年度　事業計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総務委員会	総会	例会・懇親会	例会	例会	例会	例会・スポーツ事業	例会	例会	例会	例会	総会・懇親会	例会
経営・厚生委員会			スポーツ事業		家族対象事業		ゴルフ合宿実習			新年会・OB合同新年ゴルフ大会		
広報・ものづくり委員会	ものづくりクリーンエナジーカー製作開始			瑞雲発行				産業まつり				卒業生を送る夕べ
事務局		手帳		夏祭り	初盆参り				忘年会・えびす祭り		厄払い	

直方鉄工青年会　福岡県直方市大字植木1245-2(ADOX福岡直方鉄工協同組合内)

発行人　直方鉄工青年会 広報・ものづくり委員会
発行責任者　委員長 田 渕 元 悟
印刷　㈱ワールドプリンティング　Tel.0948-25-5557